

2011 Formula Nippon
Project μ/CERUMO・INGING Race Report
第4戦 ツインリンクもてぎ

□ 8月6日(土) 予選

#33 国本 雄資 12位

< 公式予選 > 天候:曇り | コース状況:ドライ



開幕からの3戦を終え、シリーズ中盤戦を迎えた今季の全日本選手権フォーミュラ・ニッポン。開幕戦の鈴鹿、そしてオートポリス、富士と過去3戦ではルーキーながら高いパフォーマンスを発揮も、不運なトラブルなどもありポイント獲得に至っていない国本雄資と Project μ/CERUMO・INGING にとっては、“こんどこそ”との強い思いを持って迎えた今大会、舞台は栃木県のツインリンクもてぎだ。ブレーキに厳しいことで知られるテクニカルなレイアウトのツインリンクもてぎは、オーバーテイクの難しいサーキットであり、これまで以上に予選ポジションが重要視されるコースだけに、予選が行

われる土曜は待望の初ポイント獲得に向けて重要な意味を持つ一日となる。前日、時折通り雨が降るなど不安定な天候となったツインリンクもてぎで搬入作業を終えたチームと国本は、上位グリッドを目指して土曜の朝を迎えた。

この日も曇りがちの空となったツインリンクもてぎ。Fニッポン最初のセッションとなるフリー走行は、午前9時40分から始まった。

ユーズドタイヤを履いてセッション開始と同時にコースインした国本は、まずは震災の傷も癒え、改修されたばかりの路面状況を確認しつつ、最初の計測を1分55秒台とするなどゆっくりしたペースで2周すると、いったんピットへ帰還するが、ピットに戻った国本はチームにブレーキの不具合を訴える。

チームは修復を試みるが、午前9時52分に再びピットを離れた国本は、やや日差しが明るくなり始める中、アウトラップから1分46秒台とペースアップ、計測5周目には1分37秒508で10番手につけるものの、症状は今ひとつ改善されない。翌周を1分37秒255としてさらに9番手とポジションを上げた国本は再びピットイン、チームはトラブルの修復とセットアップに修正を加えて行く。しかし、国本がピットで作業を行っている間に、130Rに落下物があり、その回収のためにセッションは午前10時10分、赤旗中断となる。

セッション再開となった午前10時13分、グリーンランプとともにコースインした国本は、徐々にペースを上げ計測9周目に1分38秒033とすると、再びピットイン。この間に最終コーナーでアレキサンドレ・インペラトーリがスピン、ストップしたためセッションは再び赤旗となる。

午前10時27分、再開されたセッションは午前10時48分まで延長されることとなり、残り時間は21分。国本も、残り20分となったところで再びコースインしたものの、2周して再びピットイン、セッション終盤に向けさらにセットアップを煮詰めて行く。

残り少なくなったセッション終盤、細かくピットイン&アウトをしながらフィーリングをチェックした国本は、結局ブレーキに不具合を抱えながらの周回でニュータイヤを履くことも無いままフリー走行を終了。ベストタイム1分37秒255、14番手というポジションに留まることとなった。

迎えた午後1時50分からのノックアウト予選。まずはQ2進出のために最初の20分間のQ1で上位13位までに入る必要がある国

本だが、午前のフリー走行でニュータイヤを履かなかったこともあり、Project μ/CERUMO・INGING は最初からニュータイヤで国本をコースインさせる。

薄曇りながらやや日差しが強まる中、セッション開始と同時にピットを離れた国本は、計測 3 周目に 1 分 37 秒 500 をマーク。インターバルの間にブレーキのトラブルも解消されていたものの、マシンバランス的にはアンダーステア傾向。そこで 12 分を残して国本はいったんピットイン。ここで 2 セット目のニュータイヤに履き替えるとともに、アンダーステア対策を行い、Q1 終盤のアタックに備える。この時点で国本のポジションは 11 番手だ。

残り時間が6分を切ったところで、ライバル陣営同様にアタックに向かった国本は、2 周をかけてゆっくりとタイヤを温めると、計測 7 周目に一気にスパート。ややアンダーステア傾向は残っていたものの、1 分 36 秒 937 へとタイムアップし、7 番手へと浮上。ここでチェッカーを受けた国本はピットへ向かうが、その後続々とタイム更新するドライバーが続出。見る間に国本のポジションは下がって行く。最後の最後にチェッカーを受けたアンドレア・カルダレッリが 12 番手タイムをたたき出したことで、なんと国本は 13 番手にまでドロップしてしまうものの、セッションはそこで終了。終わってみれば薄氷ながら、国本は無事 Q1 をクリアし Q2 に駒を進めることに成功する。

午後 2 時 20 分から始まった Q2。僅か 7 分間のセッションのため、今度は最初からニュータイヤを装着した国本は、開始と同時にピットアウトしていく。Q3 進出を果たすためには、このセッションで 8 番手に入らなければならないが、国本はストレートではマシンをウェービングさせながら、慎重にタイヤに熱を入れて行く。

ところが、残り時間も僅かとなり、いよいよアタックラップに入った国本にまさかのアクシデントが。1~2 コーナーを良い感じでクリアしていった国本だが、「3 コーナーでブレーキングしたものの、止まり切れず飛び出してしまって……」と、続く 3~4 コーナーでコースアウトしてしまったのだ。

なんとかコースに復帰した国本だったが、残り時間は既に 1 分 20 秒を切っており、さらなるアタックは不可能という状況。そのままチェッカーを受けた国本だったが、もちろんタイムは 2 分 04 秒と、その前週の 1 分 44 秒 804 を更新することも出来ぬままに。文字通り不完全燃焼のまま、結局 12 番手で Q2 敗退となってしまった。

明日の決勝を 12 番手からスタートすることとなった国本と Project μ/CERUMO・INGING。決勝は簡単な戦いではないだろうが、なんとしてもポイントを獲得すべく、ベストな戦いを期待したい。

ドライバー／#33 国本 雄資

「フリー走行ではブレーキのトラブルがあったので、思うように走り込むことが出来なかったのですが、予選にはそのトラブルもなくなっていました。Q1 には最初からニュータイヤで行きましたが、ちょっとアンダーステアがあって。その対策をもらい、うまく Q1 は突破出来たのですが、Q2 ではアタックラップで飛び出してしまって……。Q3 進出は難しかったかもしれませんが、10 番手くらいには行けそうな手応えがあったので残念です。明日の決勝はきっと前に詰まってしまう展開だと思いますから、うまく周囲にマシンがないときにプッシュして、義務付けられている 2 回のピットインを終えたときに良いポジションに浮上出来るよう、チームと作戦を考えて臨みたいですね」



監督／立川 祐路

「朝にブレーキのトラブルが出てしまったために、セットアップが充分出来ないまま予選になってしまったことが響いたように思います。それでも国本は頑張って Q1 を突破してくれました。Q2 ではコースアウトしてしまいましたが、今日の状況を考えれば、クルマのポジション的にもそのあたりまでだったようにも思いますし、仕方なかったかなと。後は明日の決勝に向けて、クルマをちゃんと仕上げつつ、戦略面をうまく決めれば前に行けると思います。恐らく天候も不安定でしょうし、ここまで国本はノーポイントなのが不思議なくらいの走りを見せていると思いますから、明日はチームとしても頑張って、状況に臨機応変に対応しつつ、国本がポイントを獲得出来るようサポートしたいと思います」